

加納・関谷連日メダルの活躍

村越 真

2011 年 12 月 24-27 日 香港初のワールドランキングイベント

2011 年も押し迫った 12 月 24 日から 27 日にかけて、香港では協会創立 30 周年を記念する一連のオリエンテーリングイベントが開催された。その中でも最初の二日間はスプリントとミドルのワールドランキングイベントに指定されており、日本からも 8 名の参加があり、2 レースで男女合わせて 6 個のメダルを獲得した。

スプリント結果(12 月 24 日)

(順位、氏名、国名、時間、WR ポイント)

男子

1	Mandus Ridefelt	SWE	15:45	720
=2	Fumiyasu Ishiguro	JPN	15:48	714
=2	Wataru Teragauchi	JPN	15:48	714
4	Sam Choi Lam	HKG	15:52	706
5	Tsun Ming Lo	HKG	16:03	684
6	Gerald Yip	HKG	16:15	661

女子

1	Qiuyan Wu	CHN	14:46	0
2	Naoko Kano	JPN	14:49	0
3	Marie Sekiya	JPN	14:58	0
4	Meiyun Wu	CHN	15:14	0
5	Szu-Ying Wu	TPE	16:30	0
6	Wing Hay Yu	HKG	16:49	0

ミドル結果(12 月 25 日)

男子

1	Mandus Ridefelt	SWE	39:29	1001
2	Kwok Kuen Law	HKG	43:59	819
3	Jingxiong Mo	CHN	44:41	791
4	Yohei Ike	JPN	45:30	758
5	Maxim Simakov	RUS	46:29	718
6	Fumiyasu Ishiguro	JPN	47:16	686
7	Wataru Teragauchi	JPN	47:37	672
25	Hitomi Chijiwa	JPN	62:41	62

女子

1	Naoko Kano	JPN	44:21	0
2	Marie Sekiya	JPN	48:19	0
3	Qiuyan Wu	CHN	53:11	0
4	Meiyun Wu	CHN	55:41	0
5	Jiamin Liang	CHN	58:22	0
6	Tsz Ying Yu	HKG	58:38	0

(女子はランキング保持選手が 1 名のみのため、ランキングポイントがつかなかった)。

アジアのワールドランキング

男子

1	373	2666	Xiang Li	CHN
2	459	2299	Wataru Teragauchi	JPN
3	=505	2146	Gerald Yip	HKG
4	=535	2065	Sam Choi Lam	HKG
5	591	1933	Dai Yagishita	JPN



スプリント男子の表彰式。左から石黒、寺垣内選手(ともに 2 位)と優勝のスウェーデンのリデフェルト選手。

6 600 1903 Zhihui Yi CHN

女子

1	223	2714	Shuangyan Hao	CHN
2	272	2253	Fei Li	CHN
3	406	1556	Mikiko Minagawa	JPN
4	433	1405	Tomoko Hoshino	JPN
5	531	994	Mingyue Zhu	CHN
6	561	948	Yingwei Wang	CHN
7	=645	853	Naoko Kano	JPN

(なおランキングは概ね参加者の平均が 1000 点になるように設定され、過去 1 年の上位 4 大会の成績が加算される。アジアの選手のほとんどは得点を合計すべき 4 大会に出場していないと思われる。世界ランク 1 位は男子はチェリ・ジョルジョで 5820 点、女子はヘレナ・ヤンソンで 5713 点)

24 日はスプリントイベントが、新界のほぼ中央にあるタイポーニュータウンの海際にある公園で開催された。公園の核心部は複雑な花壇とそれに囲まれた道や通過不能のコンクリートウォールからなっており、狭いながらも精緻な地図読みが要求される。

この日は参加者で高位のランクをもっていた女子の加納と関谷が最後にスタート、加納 14:46、関谷 14:58 のタイムで 2、3 位を獲得した。優勝は中国のウー選手。加納とのタイム差は 3 秒であった。

一方男子では、スウェーデンのリデフェルトが 15:45 で優勝。石黒、寺垣内は同タイムで 2 位。ともに 15:48 と、やはり 3 秒差で優勝を逃した。



高層住宅をバックにスプリントで公園を走る加納選手。優勝のウ選手まではわずか3秒だった

翌25日は、香港の最高峰タイモシャン自然公園の中にあるトレインでミドルイベントが開催された。このトレインは、香港チームが2005年の世界選手権に備えて地図化し、トレーニングした香港唯一の走行可能な森を含むトレインである。急峻で岩がちなトレインは難度の高いルートチョイス課題を提供する一方、南部には耕作地の名残のオープンがあり、細かい地図読みを要求する。女子はほぼプランナーの予想通りの44分で、関谷を4分上回り加納が44:21のタイムで優勝し、スプリントで優勝した中国のウ選手に一矢報いた(53:11で3位)。

一方男子では前日優勝のスウェーデンのリデフェルトが39:29というコースプランナーの予想を大きく上回るタイムを挙げたことを除いても、香港のロー、中国のモ選手ともに43-44分台のタイムを出し、池が45:30のタイムを出したものの惜しくもメダルには届かなかった。

この結果、男子のワールドランキングでは、中国のリ・シャン(一昨年のアジア選手権ではジュニア選手ながら、好成績を収めた)の2666ポイント(ランキング373位)について寺垣内が2

位(2299ポイント459位)となった。一方、女子はランキング保持選手不足のためポイントがつかないという残念な結果に終わったが、もし取れていればやはりアジアで2位のリ・フェイに相当するポイントになったと思われる。



レース直後にルートを振り返る加納(左)と関谷(右)の話に香港選手が興味深そうにのぞき込む。この日は女子二人は1、2フィニッシュを達成

日本選手は、23日に香港入り、イベント終了翌日の26日には帰国するというタイトなスケジュールだった。池や寺垣内は前日の深夜にホテルに着くという強行軍で、体調が十分でなかったことが悔やまれるが、27日の最終日に開かれた閉会式兼バンケットに参加し、中国や香港のオリエンティアとの交流

を深めることができなかったのも残念である。

香港・中国とも、少し前までは林の中でのオリエンテーリングについては、日本が圧倒的な優位を誇っていた。女子こそ1・2フィニッシュを達成したものの、タイム的には差は縮まっている。男子では完敗。選手たちにとってそれは悔しい結果には違いないが、競い合うライバルが生まれつつあることは、日本のみならずアジア全体にとってもよいことだろう。

大会期間中に集まった各国連盟の運営の中核の一致した考えは、今後アジアでもっとWREを開催し、アジア諸国のランナーがヨーロッパにいかなくても一定のランキングポイントを毎年獲得できるような環境を整えることである。香港では今後毎年最低一つは、そして中国でも2012年は5月1日(メーデー)を初めとしたWREを開催予定である。アジアで開催されるランキング大会で確実にポイントが獲得できるよう、各国とも相互に選手を派遣する必要があるだろう。それを通して、アジアのトップ選手間の交流が更に盛んになることを期待したい。

(村越 真)



バンケットでは、香港協会の30周年が祝われた。左からドミニク、アルバート、ベラ、シーケーの現および元協会会長